

小学校における言葉を用いて他者に伝える力を養う授業の研究

－音楽劇の単元開発を中心として－

教育実践高度化専攻
授業実践リーダーコース
P10033H
望月 千穂

1 研究の背景

大学時代に2年間所属したゼミ(音楽専攻)において、オペレッタや声楽、小学校音楽科における教科教育法などについて学んだ。また、保育園、幼稚園、小学校を回り、オペレッタボランティア公演をしたことを通して、音楽の大切さや必要性を強く感じるようになった。

ところで、平成20年3月に告示された小学校新学習指導要領では、第一章総則・第5節「教育課程実施上の配慮事項」において、国語科で培った能力を基本に全教科で言語活動の充実を図ることが示されている。そこで、本研究では、音楽科と総合的な学習の時間における言語活動の充実に着目した。

総合的な学習の時間における言語活動の充実は、体験活動を通して行うことを重視している。特にそこでは、教科との関連において作文等の言語活動とともに、劇や音楽としてまとめ発表するという音楽劇を想定した文章も見られる。

2 研究の目的と方法

本研究の目的は、「言葉を用いて他者に伝える力」を養うために音楽劇の単元開発を行うことである。本研究における「言葉を用いて他者に伝える力」とは、自分の思いや考えを言葉を用いて他者に伝えることを示している。また、音楽劇は、身体的表現を中核に、言語的表現、音楽的表現、造形的表現を駆使しながら思いを他者に伝えるものである。言葉を用いて他者に伝えることが苦手な児童にとって、音楽劇は様々な方法で表現できるので取り組みやすい活動である。今回は、実習校のカリキュラム上、総合

的な学習の時間で取り扱うことは厳しいので、音楽科の授業を通して実践した。

本研究では、以下の方法で進める。

- (1) 先行研究について調べ、児童に期待できる音楽劇の効果について検討する。
- (2) 総合的な学習の時間、小学校音楽科における言語活動について検討し、音楽劇の単元開発を行う。
- (3) 音楽劇によって、「言葉を用いて他者に伝える力」をいかにして養えるかについて検証する。

3 研究報告書の構成

本報告書は、次の8章で構成した。

- 序章 問題の所在と研究の目的
- 第一章 新学習指導要領での音楽劇にかかわる言葉の重視
- 第二章 小学校で音楽劇をすることの意義
- 第三章 新学習指導要領における音楽科の内容
- 第四章 音楽科と他教科のかかわり
- 第五章 実習における単元開発
- 第六章 実習の実際と考察
- 終章 本研究のまとめと今後の課題

4 研究の概要

序章では、研究の全体像を示した。

第一章では、新学習指導要領における総合的な学習の時間、小学校音楽科での言語活動の充実についてまとめた。

第二章では、小学校で音楽劇をすることの意義について、「音楽科における表現」「音楽劇と

オペレッタとの相違」「児童に期待できる音楽劇の効果」をまとめ、これらを踏まえた上で「小学校で取り上げたい題材の例」について、オペレッタ『みならい天使』における単元計画案を全25時間で作成した。

第三章では、実習における授業実践について、実習校のカリキュラム上、総合的な学習の時間ではなく、音楽科で行うことになったので、新学習指導における音楽科の内容についてまとめた。特に、「教育課程改善の基本方針と音楽科との関連」「音楽科の求める学力」「今後の指導計画作成のポイント」について示した。

第四章では、音楽科と他教科のかかわりについてまとめた。合科的な指導によって、身に付く学力について、特に国語科と関連させた音楽表現活動の指導内容や、総合的な芸術表現であるミュージカルを行った実践事例についてまとめた。

第五章では、実習における単元開発についてまとめた。実習では、メンターと相談した結果、第四学年、国語科の教科書に記載されている「ごんぎつね」の物語を用いて音楽劇を行うことになった。第四学年の国語科「ごんぎつね」の学習と並行して、音楽科で音楽劇「ごんぎつね」に取り組む。「ごんぎつね」の物語の内容や、音楽劇を行う上で必要な台本、楽譜、小道具・大道具類の準備について実際に作成したものの写真を用いて説明している。そして、音楽劇「ごんぎつね」という新しい単元を開発し、全7時間の単元計画を作成した。

第六章では、実習の実際と考察についてまとめた。実習について内容や実習校の教育方針などに言及し、授業実践の記録、アンケート調査について示した。「言葉を用いて他者に伝える力」を養うことができたかについては、アンケート調査の結果や授業の際に児童に記入させた「ふりかえりカード」や「感想カード」を考察した。そして、児童の変容や児童に身に付いた力、音楽劇への興味・関心について示唆した。

5 研究のまとめと今後の課題

以上のことから、音楽劇は児童にとって楽しい表現活動であるが、「言葉を用いて他者に伝える力」は、音楽科の時間だけで養うのは難しいということがわかった。今回は、音楽科の時間において、全7時間で授業を行ったが、劇を仕上げることを目標として行うことに精一杯であった。児童は、自分の役割を正確に果たすことに一生懸命になり、他者と伝え合う楽しさを深く味わった児童は少なかったといえる。しかし、表現することの楽しさや他者と協力して一つのものを作り上げる喜びは感じる事ができたと考える。

また、音楽劇のもつ様々な表現方法を生かすために、小道具・大道具類の製作も児童にさせることでもっと想像の幅が広がると考える。このように、今回初めて音楽劇の指導を行ってみて、総合的な学習の時間を活用して、様々な教科と関連づけながら行っていく必要性を強く感じた。

このことから、今後の課題として、以下の二点が挙げられる。

第一は、音楽劇「ごんぎつね」の単元計画の再検討である。「言葉を用いて他者に伝える力」を一層意識させ、劇の完成度を上げるための具体的方策を見出したい。また、音楽的表現や身体的表現、造形的表現、言語的表現の様々な表現方法が生かされるように、他教科と関連させた指導を行えるようにしたい。

第二は、「言葉を用いて他者に伝える力」を養うための言語活動の充実をどのように図るか具体化し、どの活動に位置づけるかを再検討したい。今回行った音楽劇では、グループワークの際に話し合い活動や班で工夫したところを発表する機会をあまり設けられなかった。今後は、児童の言語活動の充実を図れる活動の単元への位置づけを明確にしたい。

修学指導教員 加藤明 長澤憲保
指導教員 佐藤真